

平成28年7月22日

在マナウス日本国総領事館
領 事 班

海外安全対策情報（平成28年4月～6月）

1 治安情勢及び犯罪の傾向

マナウス市における2016年1月～6月の犯罪認知件数合計は49,124件で、前年同期比-8.1%（4,322件減）となっております。当地治安機関による取締り頻度の増強等の効果は見られるも、未だ体感治安は高く、予断を許さない状況です。

当地は来月に開催されるリオデジャネイロ・オリンピックのサッカー予選の開催地にもなっており、同期間中、様々な外国人旅行者の出入りの活発化が予想されます。世界各地でテロの脅威が急激に高まる中、今般のバングラデッシュにおける邦人テロ殺害事件をはじめに、フランス、ベルギー、トルコ等のテロ事件を見ても、テロリストがスポーツ競技施設や地下鉄、空港、飲食店等不特定多数の人が集まるソフトターゲットを攻撃対象とする可能性が十分に懸念できます。

また、今年4月には、イスラム国（ISIL）のメンバーが「我々の次の標的はブラジルだ」と発信している事実が報じられており、2015年のシリアにおける邦人テロ殺害事件以降、日本人及び日本人権益を標的としているISIL等の脅威にも十分留意しなければなりません。

2 邦人の被害事案

5月5日（木）午前9時頃、マナウス市エフィジェニオ・サーレス地区にて邦人永住者が経営している養鶏場に拳銃を所持した強盗犯3人が侵入しました。侵入時に養鶏場のアラームシステムが鳴動し、強盗犯3名はあわてて近くにあった養鶏場のトラックを強奪、併せて従業員1名をトラックに乗せ逃亡しました。その後、従業員1名は近くの道路で解放され、逃亡を続けた犯人は軍警の追跡に対し銃撃戦を繰り広げた末に逮捕されました。

3 邦人以外の被害事案

（1）5月11日（水）夜、マナウス市ペトロポリス地区にて殺人事件が発生しました。拳銃を所持した2人組の犯人は被害者宅に侵入し、被害者に対し10発の銃弾を浴びせ逃走、被害者は緊急病院に搬送されたが死亡しました。警察によると麻薬取引に絡んだ事件の可能性が高いとみられています。

(2) 5月25日(水)深夜、マナウス市ノッサ・セニョーラ・ダス・グラッサス地区ジジャウマ・バチスタ通りにてバス強盗事件が発生しました。拳銃を所持した犯人グループは駐車してあったバスの強奪を試みるも、通りがかった軍警官(1名)に犯行を目撃され、軍警官に対し発砲・逃走しました。

(3) 5月31日(火)午後、マナウス市アドリアノポリス地区の現金両替所にて強盗未遂事件が発生しました。拳銃を所持した2人組の強盗は交換窓口にて従業員を脅し現金を要求(その際建物内で1発発砲)するも、身の危険を察知した従業員は窓口を離れ事務所奥へと避難しました。窓口のガラスが防弾仕様であったことや、出入口扉が鉄製で侵入が困難であったため、強盗犯は犯行を諦め逃走しました。

(4) 6月28日(火)夜、マナウス市ノッサ・セニョーラ・ダス・グラッサス地区ジジャウマ・バチスタ通りの予備校にて強盗事件が発生しました。拳銃を所持した3人組の強盗の内、2人が予備校内に侵入(他1名は外部で見張り)し、20人の生徒の私物(携帯電話など)を奪い逃走しました。

4 テロ・爆弾事件発生状況

該当事案なし。(爆発物・疑似物放置事案がありましたが、いずれもテロとの関連はなかった模様です。)

5 誘拐・脅迫事件発生状況

該当事案なし。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

5月25日(水)午前5時15分頃、マナウス市ジョージ・テシェイラ地区モンチ・シアオン通りにて、日本企業所有の通勤バスに対する強盗事件が発生しました。拳銃を所持した強盗2人組は、従業員を乗せたバスが、ロンバーダ(※)でスピードを落としたところを狙い停車を命じ、その後、強盗犯の内1人が車内に乗り込み、従業員から携帯電話、指輪、バックなどの私物や、作業着を奪い逃走しました。幸いにも怪我などの身体に及ぶ被害はありませんでした。

注：スピード制限用のかまぼこ状の凸地。事件発生場所には3連続で設置。

以 上